

第13回廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

1. 日程

日時:平成26年9月22日(月) 13:00~16:00

場所:いわき市生涯学習プラザ 4階 大会議室

2. メンバー

政府: (議長):高木原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)

赤羽 前原子力災害現地対策本部長

原子力災害現地対策本部:後藤副本部長

復興庁:豊島次長(福島復興局)

文部科学省:西田放射性廃棄物企画室長

農林水産省:安岡研究調整官

農林水産省水産庁:中津研究指導課長

国土交通省:渥美河川環境課長

環境省:大村水環境課長

廃炉・汚染水対策チーム:糟谷事務局長補佐、吉田事務局長補佐、

江口対策官、豊口企画官、三木アドバイザー

廃炉・汚染水対策現地事務所:野田所長、木野参事官、遠藤調整官、

岡山対策官、小野対策官、有賀対策官

東京電力:石崎福島復興本社代表、増田廃炉推進カンパニープレジデント、有馬バイスプレジデ

ント、白川福島第一原子力発電所ユニット所長

福島県(オブザーバー):玉根生活環境部次長

規制当局(原子力規制庁):山本審議官、小坂地域統括管理官

事業実施者:前川 株式会社東芝上席常務(東芝電力システム社副社長)

3. 結果概要

(1) 議長冒頭挨拶

○経済産業副大臣・原子力災害現地対策本部長に就任後、初めての現地調整会議となるが、赤羽前本部長が示された「徹底した報告」、「徹底した議論」、「徹底した対策」という「3つの徹底」について継続していく所存。

○副大臣に就任後、9月7日に現場を視察。現場で作業している方々に直に触れることができた。この難しい事故対応を支えているのは、現場の方々の努力であり、作業に携わる方々が仕事に打ち込める作業環境を整備していくことが大事な課題であると感じた。暑さも少

しずつ和らぎ、徐々に厳しい状況も緩和されていくと思うが、引き続き気を引締め作業環境と労働環境への配慮を怠らないようにして頂きたい。

○現場の努力や、廃炉・汚染水対策の進捗は、しっかりと情報発信していくことが重要。着実な廃炉・汚染水対策の実施と、しっかりと情報発信を両輪とし、取組を進めてまいりたい。

○着実な対策の実施という点について、これまでの現地調整会議では、汚染水対策の議論が中心であったが、今後は、地元にとって関心の高い重要な事項についても、議題としていきたい。今回は、地元の皆様が心配している「1号機建屋カバーの解体工事」について報告を受けるとともに、モニタリング体制、自治体・住民の方々への連絡体制等について、議論を行いたい。

○地下水バイパスについては、本格運用開始から約4ヶ月経過したところである。前回、観測井戸の水位低下が報告され、効果が表れてきているところであるが、本日は建屋流入量の評価・分析結果についても報告いただきたい。

○多核種除去設備(ALPS)は、順調に稼働している状況について説明を受けるとともに、増設ALPSのホット試験の結果、高性能ALPSのスケジュール等についても報告を受ける予定である。

○海水配管トレンチについては、その後の追加対策に向けた状況について報告を受けるとともに、今後の対策のあり方についてご議論をいただきたい。

○サブドレンについては、期限を決めないで漁業者を始めとした関係者に対し、浄化の効果、安定稼働できること等を丁寧に説明していくことが重要であり、本日も状況について報告を受ける予定。

○タンクの増設計画について、発注先メーカーの進捗管理の状況及びその後の検討結果について報告を受け、議論を行いたい。

○その他、凍土遮水壁、フェーシング、HTI建屋接続トレンチの止水対策等についても進捗状況等の報告を受ける予定である。

○本日も、活発な御意見、徹底した議論をお願いしたい。

(2)会議概要(主な指摘事項)

議題1

<資料1-1>

- まだデータを蓄積する必要があるので、継続的にモニタリングすること。
- 地下水バイパスの効果がシミュレーションより出ているのはよいことだが、シミュレーションモデルをより精緻なものにするため、地下水サブグループと連携していくこと。

議題2

<資料1-2>

- あぶない状況でなくとも、あぶなくないという情報も提供すべき。
- 建屋カバー解体の放射性物質の飛散については、西風による海方向への飛散時のモニタリングはどうするのか、漁業者には説明しないのか。
- 放射性物質の飛散防止については国の責任においても対応してほしい。万一、放射性物質の飛散をさせるようなことがあった場合、その情報は数字だけでなくその数字の意味もきちんとすみやかに情報提供してほしい。
- ダストモニタリングポストについては、トラップされているダストの舞い上がりによる影響も評価できるよう、データの揺らぎについても考慮し次回の会議で示すこと。
- 放射性物質の飛散が発生した場合は、飛散した先の農産物などの検査密度をあげる必要があることから、SPEEDIの情報の活用を検討してほしい。

議題3

<資料2>

- タンクの設置については管理を強化すること。
- 水バランスのシミュレーションについて、サブドレンの効果発現を11月とするケースのみ示すことは不適切。リスクケースとして、複数のシミュレーションを作って次回報告すること。

(3)次回以降の日程

○次回は10月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。

(以上)